

ツククサ科 ヤブミョウガ属

ヤブミョウガ (藪茗荷)

Pollia japonica Thunb.

自生環境

山林

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



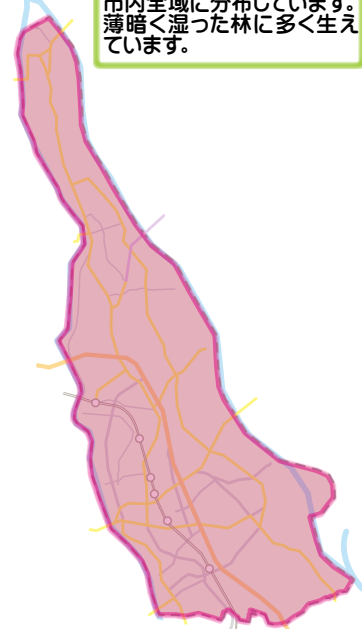
自生環境の山林は、ササの繁茂や不法投棄などで荒れている場所が多く見られます。また周辺の開発や伐採などによって土の乾燥化も進んでおり、生育への脅威となっています。

特徴

- ☆ 関東地方以西の比較的暖かい地域に分布する多年草で、うす暗くジメジメとした林内に生えています。地下茎を横にのびながら広がっていくため、しばしば群生します。日陰に強く「和の風情」があるため、庭の小草としても栽培されます。
- ☆ ミョウガと名がつきますが、葉の雰囲気似ているというだけで、野菜のミョウガ（ショウガ科）とはまったく別な種類です。葉は長さ15～30 cm ほどの細長い楕円形で、先はとがります。茎や葉はざらつきます。
- ☆ 8～9月頃、茎の上部に白い花の穂をつけます。雄花と両性花が混じって咲き、両性花は雌しべが長くのびています。1つの花は1日でしぼみます。花は花びら3枚・がく3枚からなりますが、どちらも白色で質感が薄く、花びらが6枚あるように見えます。

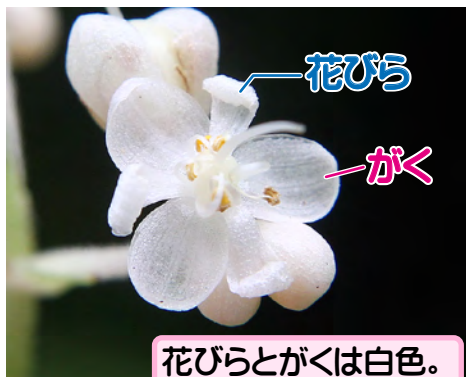
市内の分布状況

市内全域に分布しています。薄暗く湿った林に多く生えています。



熟した果実をつぶすと...

ヤブミョウガの果実は球形で青黒く熟し、潰すとぶちゅっと汁とともにタネが飛び出そうな雰囲気があります。しかし実際には果肉はなく、果汁も出てきません。中には多数の「多面体状のタネ」が、まるで立体パズルのように複雑に組み合わせられて、球の形になっています。そしてタネの外側には薄い果皮があるだけです。そのため果実を指でつぶすと、パサパサと碎けるように割れていきます。



花びらとがくは白色。それぞれ3枚ずつつく



葉の雰囲気がミョウガ(ショウガ科)に似ている



比較 ミョウガ



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

